

山と電気の風景論 ⑬

月山と蔵王山～春スキー・温泉・自然エネルギーのメッカ～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

新年度に入り、本連載も二週目の春を迎えた。冬が過ぎ、これから登山準備をしたり、春スキーを楽しむ読者も多いだろう。

今回は、初心者向けに登りやすく、しかも残雪の醍醐味や温泉も楽しめる月山、蔵王山を特筆したい。

山形・宮城県の火山帯、再生エネルギーの霊峰

月山は山形県中部に、蔵王山は山形県と宮城県の境に位置しており、一泊二日のドライブで両座の登頂を楽しむことができる。

両山とも火山帯で温泉が湧き、積雪・水資源が多く五穀豊穡の要であるため、地元では神様の棲む神山とされている。

登山者は山の恵みをいただき身体を中から清める。またスキーシーズンは6月頃まで続き春スキーヤーで休日のリフトは長蛇の列ができる。



月山のスキー場と登山者

蔵王のふもとには、近年、多くのソーラー発電所や風力発電がこの数年来、次々に建設されているが、東北電力では約80年もの長期運転で「電化」のヒーローたる水力発電が脚光を集めている。1940年に運転開始した東刈田発電所で、有効落差約145m、認可出力は5500kWとなり、地元で安定的な電力を供給している。

一方、月山山麓には朝日村、鶴岡市など庄内南部で使用する電気の約5%をまかなう東北電力・月山発電所がある。こちらは、近年(平成13年)運開しており、最大有効落差80mの一般水力出力8800kWである。発電所のダム構造は、半地下式になっており景観など自然環境にも留意している。

出羽三山と月山の特徴

月山は湯殿山(標高1500m)、羽黒山(同418m)とともに出羽三山と称され、山岳信仰の修験者が登る霊峰である。出羽三山は、1600年の歴史を有するが、その中心が月山である。

前世の月山、現世の羽黒山、来世の湯殿山と伝えられ、三山は人生の輪廻を表している。山登りには本来的に



月山頂上からの山脈と米どころ・庄内平野

死者として登り、山の胎内で生まれ、赤ちゃんとして山を下り里で暮らすという伝承である。かつて、「西の伊勢参り」に対比し、月山の出羽三山は「東の奥参り」と言われ修験道のシンボルである。

4月下旬に苗代づくりが始まり、5月に神様が月山に向かい、88夜の豊作を祈願する。

山麓は月山湧水群として名水百選、また行人清水の森として森百選にも選ばれている。水力発電所の適地が数多くあるゆえんである。

月山 1980m (平成27年5月23日)

往復3時間40分、36.6km、標高差477m、姥沢コース。

山岳信仰の修験者が登る霊峰には、まだ背筋がピリリとする寒い残雪期に登った。修験者が登り始める頃であった。

ただ好天の休日だったためスキーゲレンデやリフトにはスキーヤーがあふれ、駐車場も満車だった。当日のスキー客と登山家の数を比べると、10対1くらいだろうか。筆者は、リフトに乗りゲレンデを軽快に滑走するスキーヤーたちを横目に、アイゼンを付けた登山靴のツボ足歩行で数人が先行する雪道トレースを追って登った。日光が雪に反射して眩しくサングラスは必須である。しかし、雪の多い山国でのスノーシュー・かんじきを履くほど、頂上付近での雪はなく、両手にストックで十分であった。

牛首までは一面の銀世界で、急勾配も一步一步、登山靴を進め、スキー客もバックスキーやソリ滑りを楽しむ。牛首で雪が消え、火山岩、火山石がむき出しになる。そこで一服し、アイゼンを外す。

そこから、ひたすら厳かな冷気のなか、山頂の月山



山頂の月山神社参道にて

神社が鎮座する参道を歩んだ。神社で参拝するとともに、庄内平野や日本海への山並を眺望した。月山の積雪が田んぼに豊作の水を与え、地元で五穀豊穡をもたらすことが遠景できた。

30分ほど、昼食を味わい、ゆっくり瞑想した後、一気に山を下った。生まれ変わった気がした。「八紘一宇」の平和で温厚な世界が、そこに存在している気がした。

姥沢小屋では珈琲で身体を温め、雪山を登山口付近まで下り地元山菜の精進料理を味わった。

【行程】

- 10:15 姥沢駐車場。
- 10:25 姥沢小屋。
- 11:20 牛首(10分休憩)。
- 11:58 頂上小屋。
- 12:08 月山(神社で10分ランチ)。
- 12:22 頂上小屋。
- 12:55 牛首。
- 13:40 姥沢小屋(珈琲、山パッジ)。
- 13:55 姥沢駐車場。

雄大な蔵王の特質

「火の山」蔵王山と言われ、御釜は特に有名で、雄大なスキーゲレンデもあり、交通アクセスも整っているため都心部からも行きやすい。全国からも温泉、スキーなどで訪問した方も多だろう。

しかし山頂付近には噴火によるゴロゴロ石が目立ち、歩きにくいところが多々ある。昔は火を吹く魔物が棲むと恐れられ登頂も憚られたと聞かすが、人びとの気持ちを鎮めるために神様をつくり蔵王権現と奉ったあと、修験者をはじめ人々を引き寄せた。荒ぶる神は、火の山の恵みを地元温泉として与えた。冬はスキー場と樹氷モンスターが有名だが、春先からはトレッキングやテント泊ができる。

蔵王は奥が深く広い。最高峰は、熊の岳であるが、宮城県、山形県への25kmの連峰を蔵王と総称している。車やロープウェイで登山ができる入門ルート



蔵王の御釜

ができ、県営レストハウスができ、車で立ち寄り熊の岳にトレッキングする登山客が急増した。

宮城県と山形県にまたがる南部の連峰で活火山。温

泉の恩恵がありスキー場も多い。火山岳のお釜とエメラルド色の湖が見える。

熊野岳 1841m (平成26年9月12日)

往復2時間10分、2.4km、標高差115m、刈田岳コース。

今回は、久しぶりに家族サービスを兼ねて、比較的行きやすい、蔵王の展望レストハウスまで、自宅(松戸)から早朝にドライブした。展望台から少し下って御釜を眺め、散策した後、最高峰の熊野岳を目指した。歩くうちに残念ながらガスがかかりはじめ、視界は20m程度になり、霧雨も降って寒くなっていった。

馬の背という斜面の岩場を登ると、うっすらと熊野岳避難小屋が見えた。中には、ストーブと燃料が整備され、雪や強風の嵐日には避難でき助かる。

頂上には防水合羽を着て登り、早目に下山を急ぎ、参道を上がり、刈田岳の神社に到着した。そして展望レストハウスに戻り、地元の芋煮味噌定食を味わった。短時間の登山であったが、身体が冷えていたため、温まり、再生する思いであった。

その後、蔵王温泉の旅館に泊まり、白濁の強酸性硫黄の露天風呂や、山形牛、芋煮で山形吟醸酒を堪能した。旅館の展望風呂からは、スキー場のゲレンデや朝日岳、飯豊山、吾妻山が眺望できた(翌日は雨天。本当は、月山も登ろうとしたが、天候不順で次回にした。実際は、前述の27年5月に登頂できた次第です)。

蔵王は、多くのルートがあるが、快晴の日には温泉街の麓から中央ロープウェイのコースも手軽でお勧めだ。

【行程】

- 13:30 展望レストハウス(県営)。御釜を展望し、熊野岳避難小屋を経る。
- 14:25 熊野岳頂上(15分休憩し写真撮影)。
- 15:20 刈田岳頂上。
- 15:40 展望レストハウス。



麓の温泉街と登山・スキーロープウェイ